

## ASEAN グローバルプログラムに 参加して

篠田 涼介

Ryosuke SHINODA

機械工学・ロボティクス課程 3年

### 1. はじめに

2023年8月26日～9月1日に、ベトナムで行われた ASEAN グローバルプログラムに参加し、期間中に「ベトナムの交通課題を解決せよ!」というテーマ(図1)でPBLを行った後に、チームで発表をした。



図1 今回の研修で課された課題

### 2. 本プログラムの概要

#### 2.1 参加したきっかけ

私は元々、海外思考があったわけではないが、どこかで将来英語が必要になるのではと考え、大学生のうちに一度は海外で英語を使って何かを達成する経験が、これから先の人生にとって財産になると考えたため参加を決めた。また文化の違いに少し興味があったため、1週間の短い滞在の中でもベトナムの独自の社会や考え方を肌で感じることができると考えたことも一つのである。

#### 2.2 本プログラムについて

今回のプログラムでは、協力企業である WILLER 株式会社さんからいただいた課題に対して龍谷大学の学生とハノイ工業大学の学生で編成さ

れた計6チームでそれぞれ解決策・提案を考え、それを最後にプレゼンをし、評価して頂くというPBLであった。

### 3. 研修内容

#### 3.1 PBL 発表資料作成

このプログラムの中で私は特にPBL発表資料作成について報告する。ここでは2日間にわたって街中やハノイ工業大学で行ったアンケート結果を元に、事前にチームで練り上げていた課題の解決策がほんとに正しいものなのかどうかの吟味し、プレゼンに使うスライドの作成に臨んだ。私がスライドのデザイン担当であったため、積極的に作成に取り組んだが、この1週間もない時間の中で顔を合わせたことも少ないメンバーの意見をまとめ上げ、与えられた課題に対して適切なアプローチで伝えたいことを入れ込む作業はとても骨が折れるものだった。作成時に意識したことは2点あり、一つは統一感のあるデザインにすること、もう一つはできるだけシンプルで何を伝えたいのか分かりやすいようにキーワードを配置することとした(例:図2)。



図2 プレゼンで使用したスライドの一部

#### 3.2 英語での大学紹介

ハノイ工業大学に初めて訪問した際に私は龍谷大学の生徒を代表して英語で大学紹介をすることにもチャレンジした。写真1にその様子があるが、本番は緊張からか練習通りに言葉が出ず、台本も見ながらも詰まりながらの発表になってしまった。正直とても悔しい気持ちでいっぱいだが、これが自分の現

状の能力だと認識できる機会になったし、また、今回上手いかなかったからといって、この経験が無駄だとは思わないように考えている。自分の意思で立候補して一生懸命スライドを作り、原稿を考えて英語に翻訳して準備してきた過程、最後までやり切ったことから学べたこともあり、これからの糧にしていきたい。



写真1 私が大学紹介をしている様子の写真

## 4. 成長と気づき、卒業までの目標

### 4.1 人に頼ること

これまでも共同作業する機会があったが、その目的がそれほど難しくないことが多かったためか、グループの他の人の意見や作業を頼ったり、しっかり理解せずに自分の意見を押し通しても、それなりの結論に達することができる場合が多かったと思う。今回は私がリーダーの役割をさせて頂いたので、最初は特にその傾向が強かったかもしれない。ただ今回の課題は、答えの無い難しいもので、これで良いのかと迷いながら手探りで進めることが多く、自分の中でもビジョンがはっきりと見えていなかったため、リーダーとして決めないといけない事が後回しになっていたり、メンバーから問われた際に、即答できないこともあった。やるべき事は山積みであるのにその仕事をリーダーである自分が割り

振ってお願いできていないこともあり、チームのメンバーも何をしたら良いのか分からず、作業効率が著しく悪くなることもあった。効率が悪いながらも何とか形にできた部分もあるが、作業や決定もメンバーで分散したりお願いしたり任せられたら、よりよいものになった部分もあったと思う。この経験から、時間が限られていたり困難な目標の場合は、すべてを抱え込もうとしない事やメンバーを信頼して頼ることが重要となる場合がある事を学べた。

### 4.3 これからの目標

この研修を終えて、普段の生活に大きな変化が起きることはないと思われる。しかしながら、4.2でも書いたように、このような難易度の高いグループワークをする機会はその遠くない未来においてあると思う。その時に瞬時に物事の本質や流れを見抜き、目標の達成のため恐ろしいまでの情熱を注ぎ、自然と周りの人が集まるような求心力を持ちながら導くようなリーダーシップを発揮する人物に私はなりたいと強く思う。その領域に到達することは容易ではないことは想像に難くないだろう。失敗できるうちにたくさん失敗して、もがいて、試行錯誤して、苦しんでいつかものにできたら良いなと私は考える。

## 5. まとめ

今回のプログラムで私はたくさんの失敗したと思っている。だからこそこれが研修で良かったと心底感じている。人間は一人では生きていけない以上、これから先このような誰かと協力して何かに取り組む機会は数多く遭遇すると思う、ただこのような失敗をした経験があればせめてそれは避けることができるかもしれない。お金を出してでも自分が欲しかった貴重な経験を得て、さらに人間として成長できたと私は考え、この報告を終える。